

令和 7 年度 県立藤代紫水高等学校自己評価表

目指す学校像	・活力があり、生徒も教職員もともに幸せで楽しい学校 ・知・徳・体が調和した豊かな人間性を培い、民主的な社会に貢献し得る人間の育成を目指す学校 ・地域に貢献し、社会から信頼される生徒を育むために、一人一人の生徒に誠実に向き合う学校		
三つの方針	具体的目標		
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	・知・徳・体が調和した豊かな人間性をもち、民主的な社会に貢献し得る人財の育成 ・地域に貢献し社会から信頼される人財の育成	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	・生徒の幅広い学習ニーズに対応した学習活動とキャリア教育による、大学進学から就職までの進路希望実現	
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	・学習、学校行事、部活動等に積極的に取り組むとともに、自分の進路実現に向け努力する生徒	
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
【昨年度の成果】 1 スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門家を積極的に活用することで教育相談体制を強化することができた。 2 規範意識やモラルを高める取組を充実させた結果、挨拶・礼儀等の基本的生活習慣を生徒に身につけさせることができた。 3 学校WEBページを充実させ、本校の教育を保護者や地域の方々に積極的に配信することで、その目的と成果を周知し、信頼される学校づくりの一助とすることができた。	1 豊かな心を育む教育の推進と生徒支援の充実	・「チーム学校」として関係機関と連携し、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門家を積極的・効果的に活用することで、教育相談体制の強化を図る。 ・自己指導能力の育成のために挨拶指導を推進し、他者を思いやる意識の醸成を図るとともに、規範意識やモラルを高める取組を充実させる。 ・面談等を通じて生徒一人一人の個性や特性を十分に理解する。 ・生徒の実態を把握し、悩みや不安に寄り添った生徒支援体制づくりを行う。	A
	2 探究的な学びをめざした授業改善とICT教育の推進	・問いの発見と解決に重点を置く、課題解決型の学習スタイルへの授業改善を一層促進する。 ・ICTを活用した個別最適な学びを確立する。 ・授業満足度（KPI）4段階中、平均3.0以上を目指す。 ・研究授業や相互授業参観を積極的に行い、授業改善や教科指導法に関する研究協議を実施していく。	A
【今年度の課題】 1 心を育む教育の推進と生徒支援の充			

別紙様式 2 (高)

実を図るために、昨年度の体制に加え、医療機関や中学校等を含めた外部の専門家との一層の連携強化に取り組む一方、校内の連絡・報告体制を整備することで迅速かつ適切な対応ができるようにする。	3 確かな学力の定着と自ら学ぶ姿勢の確立	・生徒が正解のない問いに臨む機会を創出し、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの個別最適な学び、協働的・探究的な学び、反転学習等の教育活動を推進する。 ・ICTを活用した学習アプリを使い、家庭学習の習慣化を支援する。 ・異校種との連携や校内外の研修への参加を推奨し、高い専門性を持った学び続ける教員を育成する。	B
2 生徒の学習意欲を高め、主体的な学習活動を支援し、家庭学習を促進するためにICTや学習アプリ等を活用した学習を推進することで「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図るなど、授業改善に積極的に取り組む。	4 多様な進路希望に対応したキャリア教育の充実	・生徒が自らの在り方・生き方を考え、進路を主体的に選択する資質・能力を育成する指導の工夫を図ることで、生徒の自己実現を支援する。 ・キャリア教育に関する実践的・体験的な活動への参加を促進し、種々の分野で社会人として活躍・貢献できる力を育む。 ・ホームルーム等において、キャリア・パスポートの積極的な活用と充実を図る。	A
3 生徒一人一人が自らの意思と責任で進路を主体的に選択する資質・能力を育成する。特に教員志望の生徒に対して重点的に支援の方法を研究するなど、多様な進路希望に対応したキャリア教育を推進する。 4 面談や定期的なアンケート、保護者との密接な連携等をとおして、生徒理解に努め、充実した学校生活が送れるよう支援する。 5 昨年の広報状況を分析し、積極的な	5 生徒の自発的・自治的活動による学校行事や部活動、ボランティア活動等の充実	・生徒が自発的・自治的に活動できる環境づくりに努めるとともに、それらを通して生徒間の友人・仲間づくりを支援するために学校行事等を充実させる。 ・教職員や部活動指導員・外部指導者等による支援体制を整備し部活動の充実を図る。 ・生徒会の主体的な活動の促進等、生徒の自治的・協働的な活動を活性化し、シティズンシップ教育を推進する。 ・自己有用感の育成を図り、ボランティア活動等の社会奉仕体験活動への参加を促していく。	A

別紙様式 2 (高)

PR 活動を行うとともに、学校 WEB ページやスクールガイド等による広報活動の一層の充実を図る。	6 開かれた学校づくりの推進	・保護者や地域社会との連携を図り、学校公開等の実施や地域行事等への積極的な参加等により、本校教育活動への理解を深めてもらう。 ・積極的に学校の取組や生徒の活動を発信するため、学校WEB ページ等の充実を図る。 ・定期的に中学校訪問を行い、中学校との連携を深め、志願者の増加に努める。	A
	7 働き方改革の推進と職場環境の改善	・職員のウェルビーイング向上のため、80 時間以上超過勤務者の校務を見直す等、業務の平準化に努める。 ・ワークライフバランスを重視し、時差出勤制度等の各種制度の積極的な活用を図る。 ・複数顧問制の徹底等により、部活動運営方針の徹底を図る。 ・教材等の共有や外部の教育資源の活用を推進する。	A
	8 コンプライアンスの遵守	・厳正な規律と高い倫理観を保持しつつ職務に精励する。 ・教職員一人一人が全体の奉仕者であるといった公務員の原点を自覚するとともに、職務上の義務や身分上の義務について理解し、自らの行動を見つめ直す。 ・教員評価面談等及び学校コンプライアンス推進委員会の開催や法令遵守に向けた研修を行い、教育職公務員として服務規律を遵守する意識を一層徹底する。	A

別紙様式2（高）

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
国語	1 思考力・判断力・表現力の育成	・教材に応じて内容を要約させ、読解力・表現力を養成する。	A	A	・他者と協働したり、自分の考えを深めたりしたものをも自分の言葉で発表する機会を作り、効果的な言語活動を行う。 ・漢字検定受検者数、合格者数を増やせるように、生徒への声かけや課外等を積極的に行う。
		・プリント等を活用し、文章の内容を的確に捉える思考力を育成する。	A		
		・他者の発表を聞き自分の意見と照らし合わせて、さらに考えを深める判断力を育成する。	B		
		・自分の意見を発表する機会を増やし、積極的に自分の言葉で表現する力を養成する。	B		
	2 基礎学力の向上・家庭学習の定着	・月に2回の漢字小テストを実施し、達成感を味わう活動を行う。	A		
		・提出物の徹底を図り、家庭学習の定着を図る。	A		
		・漢字や文法等を繰り返し学習することで、基礎的な知識の定着を図る。	A		
	3 資格取得の奨励	・授業において漢字練習の機会を与えるなど個別最適な学習を行う。	A		
		・2年次の一斉受験に向けて、1年次より漢字検定の受検に対する意識を醸成する。	B		
地理歴史	1 基礎学力の定着	・漢字検定の合格率向上のため、課外等の充実を図り、生徒を支援する。	A	A	・学習内容を現代の国際問題等と関連づけて理解する授業を実施する。 ・科目間のつながりを意識し科目横断的な授業を実施する。
		・授業内容を精選し、基礎的な知識・概念の定着を図る。	A		
	2 民主主義の本質に関する理解の深化	・歴史科目においても地図ワーク等を利用し、地理的感覚を養う等科目横断的な授業を実施する。	B		
		・様々な時代・地域を学ぶ際に、国家の役割や民主主義について考える。	A		
	3 現代の国際的諸問題と関連づけた理解の深化	・新聞やニュース等を活用し、最新の国際問題と関連づけた授業展開をする。	B		
公民	1 基礎学力の定着	・民族・文化の多様性を尊重する姿勢で様々な時代や地域を学び、自らも世界の中の一員であることを意識できるようにする。	A	A	・資料活用能力や合意形成能力を養う授業を実施する。
		・協働的な学びによる意見交換や発表を通し、思考力・判断力・表現力を養う。	A		
	2 事実を基に多面的・多角的に考察し、公正に判断する力の育成	・資料読解やディスカッションを行い、資料活用能力を養う。	B		
		・国家及び社会の形成者としての自己を意識できるように、生徒にとって身近な事例を取り上げる。	A		
		・合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する。	B		
数学	1 基礎学力の定着	・生徒の能力や実態を鑑みて、授業展開と教材を精査する。	A	A	・科目間のつながりを意識し、教科横断的な授業を思案する。
		・各教科の内容との関連づけを意識させながら、基礎的な計算の練習を行う。	B		
	2 授業方法・内容の改善	・基礎的な事項の理解と定着を図るため、教員相互の授業参観を行い、指導方法の工夫と改善を図る。	A		
		・生徒それぞれの希望進路を考慮した上で、授業内容を改善する。	A		
	3 学習習慣の定着	・生徒の学習習慣の確立のため、定期的にノートや問題集等を提出させ、適切に評価する。	A		

別紙様式 2 (高)

		・長期休業時の課題の内容を授業やテストで確認・評価することにより、家庭学習習慣の定着を図る。	B		
	4 数学的思考力・表現力の向上	・身近な事柄に関して、表やグラフ、数式等で表現し、数学的に考察し表現する力を養う。	B		
理 科	1 化学的な自然観の育成	・化学の基礎・基本的な知識の習得を図り、物事を科学的に探究する能力と態度を育成するために、化学に関する演示実験・生徒実験を行う。	A	A	・基本的な知識の習得に力を入れた授業を行い、科学的に探究する能力と態度を育成したい。 ・I C T機器や視聴覚機材を有効に活用した授業の展開を行いたい。
		・個人の理解度に応じた指導内容を工夫し、より理解を深めるために、視聴覚教材 やI C T機器を有効に活用する。	B		
	2 生物的な自然観の育成	・身近な自然の事物・事象を取り上げ、授業の課題設定を行うことで、生徒たちが 課題を持って学習に取り組むことができるようにする。	A		
		・授業ごとに振り返りの時間を設定し、メタ認知能力を育む。	A		
		・自然科学的な物事の見方・考え方を意識した授業を展開する。	A		
	3 物理的な自然観の育成	・自然現象を科学的に分析する営みを通して、事象を論理的に考察する力を養うとともに、物理学の雰囲気を感じとる。	A		
		・生徒のより深い理解を目指し、I C T機器を活用したわかりやすい授業を展開していく。	B		
保 健 体 育	1 各種運動の合理的な実践を通しての運動技能の向上	・I C T教材や視聴覚教材を用いることで、生徒が興味・関心を持ち、自ら健康・安全について理解を深められるようにする。	A	A	・基礎的な事項の理解と定着に力を入れる。 ・各種目において、技能差があるため、生徒一人ひとりに応じた課題を設定し、個別指導の充実を図る。
		・ノートを毎学期末に提出させ、学習習慣や理解度を確認する。	A		
		・球技（サッカー・ハンドボール・バスケットボール・バレーボール・バドミントン・テニス・ソフトボール・卓球）、武道（柔道）、水泳、陸上競技（マラソン）、体づくりの様々な運動を行い、技能を高める。	A		
	2 運動の楽しさや喜びの会得	・自らの体力・技能を知り、自らが課題をみつけ、課題解決のための学習計画を立てることができるようにする。	B		
	3 体力の向上及び公正・協力・責任の態度の育成	・マラソン大会に向け、1ヶ月間程度、持久走を行うことにより、体力の向上を図る。	A		
		・準備運動・整理運動を徹底し、自己の体調管理ができるようにする。	A		
		・個々へ役割を与え、集団の一員として公正・協力・責任等の態度を育てる。	B		
	4 生涯を通じて継続的に運動ができる資質・能力の育成	・場の設定や器具・用具、ルール工夫により学習効率を上げる。	B		
		・活動場所・用具の点検を行うことで安全面の配慮ができるようにする。	A		

別紙様式 2 (高)

		・ノートを毎学期末に提出させ、理解度を確認する。	A		
音楽	1 幅広い音楽活動による生涯を通じて音楽を愛好する心の育成	・歌唱・器楽・鑑賞・創作の分野について、幅広く学習実践する機会を設ける。	A	A	・単元毎に小テストを設け、基礎的な知識の定着を図る。 ・言語活動に力を入れ、音楽鑑賞で感じたことや考えたことをグループで発表する等の機会を充実させる。
		・曲をじっくりと味わうことができるよう、ワークシートで鑑賞能力を高める。	A		
	2 基本的な読譜力・表現力の育成	・曲の理解やアンサンブルの楽しさを通して、音楽を愛好する心を育てる。	A		
		・基本的な知識及び技能を習得し、個別最適な反復練習をする機会を設ける。	B		
	3 音楽を伝統や文化、歴史的な側面から理解する資質・能力の向上	・表現及び鑑賞の領域において、ワークシートを使用し、曲の背景や作曲家の意図を理解し、感じ取る力を育む。	A		
		・多様な文化に触れる機会をもち、良さを味わう活動を行い、批評する力や表現力を獲得する。	B		
	4 音楽活動を通して主体的・対話的に活動する力の育成	・個々の音楽経験や技能に応じた目標を設定し、個別最適な学習を行う。	A		
		・音楽のグループワーク・演奏活動において、対話的・協働的な力を育む。	A		
書道	1 基本的書写能力の向上及び興味・関心の育成	・題材に応じた資料を作成し、基本的な用筆法等の知識、技能の定着を図る。	A	A	・生徒の一人ひとりの実態に応じた目標設定をし、個別指導の充実を図る。 ・鑑賞における効果的な活動の仕方を考え、充実を図る
		・生徒一人一人の個性や技能を考慮し、最適な個別学習をする。	A		
	2 書に親しみ愛好する心の育成	・実用的な書に取り組ませ、書に対する興味関心を高める。	A		
		・3年次では、卒業制作として折帖の作成をする。	A		
	3 表現力・鑑賞能力の向上	・題材ごとに鑑賞する機会を設け、表現力を養う。	A		
		・本、新聞のタイトルや石碑等の身近な書を教材に採り入れることで、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。	B		
英語	1 4技能の指導の充実	・効果的に主体的・対話的で深い学びの実現を図るためにアクティブ・ラーニングを取り入れた授業展開をする。	A	A	・ICT活用のさらなる工夫を図る。 ・検定受検者及び合格者の増加に向けた具体的な手だてを検討・実行する。 ・ALT含め教員間の連携を強化し、指導の充実を図る。 ・提示する課題を工夫し、英語力の向上・定着を図る。
		・ALTを積極的に活用し、クラスルームイングリッシュを用いた授業を積極的に行う。	A		
	2 基礎学力の向上・反復学習による内容定着	・定期的な小テストの実施等を通して、既習事項を繰り返し学習し、知識及び技能を確実に定着する。	A		
		・生徒の実態に合わせた課題を定期的に配布することで、反復学習の習慣を身につけられるようにする。	A		
		・生徒の実態に合わせた個別最適な学習と協働的な学習の両立を図る。	B		
		・ICTを活用し、授業理解の促進を図るとともに、スモールステップで達成感を味わう活動を取り入れる。	A		
	3 資格取得の奨励	・英検I B Aの受験による英検受験の奨励と合格者の増加に向けた課外等の指導の充実を図る。	B		

別紙様式 2 (高)

家庭	1 基礎知識と技術の定着	・ I C T教材を活用し、きめ細やかな支援を日々心掛け、確かな知識と技術の習得を図る。授業において身につけた知識と技術を日々の生活に活かせるよう、一人ひとりが活躍できる場を提供する。	A	A	・授業において身につけた知識と技術を日々の生活に活かすことができるようにする。 ・ I C T機器を積極的に活用した授業実践を図る。 ・生徒の実態に応じた目標を立て、個別指導の充実を図る。
	2 安心して学べる環境づくり	・包丁や裁ちバサミ等実習道具の扱い方等の知識及び技能を習得するとともに安全管理を徹底する。	A		
		・教科等横断的な様々な体験を通して、生徒達が得た「知力」「体力」「感性」を十分に使いこなせる場面を、授業において設定し、思考力・判断力・表現力の育成を図る。	B		
		・日々教材研究に努め、官公庁からのデータの使用等、正確かつ最新の情報を授業に取り入れる。	A		
	3 地域との連携	・学校家庭クラブ活動を通して、地域との連携を図る。	B		
情報	1 情報社会についての理解	・情報社会に潜む危険性を理解する。	A	A	・段階的課題設定による成功体験の積み上げを図る。 ・今後プログラミング教育での説明活動を充実させる。 ・観点別評価を意識した評価規準を明確化する。
		・情報社会のモラルを理解し、コンピュータを扱う上でのルールやマナーを理解する。	A		
	2 コンピュータについての理解とその活用	・コンピュータの使用方法を理解する。	B		
		・社会生活におけるコンピュータの利便性を理解し、活用できるようにする。	B		
	3 インターネットについての理解とその活用	・インターネットを安全に使う方法を理解する。	A		
教務部	1 学習意欲の向上	・学習指導方針のさらなる改善を図るために、主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業を進める。	B	A	・ I C Tを通して、生徒にとって「分かる授業」を行うために、より効果的に授業実践できるように取り組む。 ・MACアドレスやアカウント登録処理が煩雑になるため、担当者の継続について事前に相談できる機会を設ける。
		・ I C T活用による教育活動を促進し、効果的な授業を実践する。	B		
	2 校内研修の充実	・観点別評価や I C T活用などの課題に即した研修会を充実させる。	B		
	3 広報活動の充実	・本校の特色や魅力を積極的に中学生に P R するため、進学フェアへの参加などを通して学校説明会の充実を図る。	A		
	4 G I G Aスクール事業に関する教員の資質能力向上	・Google Classroom をはじめとした授業アプリケーションの効果的利用法を検証すると共に、1人1端末のタブレットを利用した授業の展開を図る。	B		
		・教員の I C T機器への理解や情報セキュリティ意識の向上を図る。	A		
	5 G I G Aスクール事業に関する生徒個人アカウント・MACアドレス等の管理	・新入生のMACアドレス及び、在校生の機種変更等に伴うMACアドレスの変更処理を適切に行う。	A		
		・生徒の教育情報ネットワーク、MSアカウント、学びポケットアカウントの年度更新処理、移動処理、変更処理等に可能な限り迅速に対応する。	A		

別紙様式 2 (高)

	6 施設・備品等の管理	・生徒の I C T 機器への理解や情報セキュリティ意識の向上を図る。	A		・保護者との電話連絡が困難なため、Classroom 等の活用を勧める。 ・図書委員会活動の充実、読書週間の実施方法の検討によるさらなる図書室利用の活性化を目指す。
		・校内のコンピュータとその関連機器および視聴覚機器を管理して、校務に支障が出ないように運用する。	A		
		・校内無線ネットワークの維持管理	A		
	7 緊急情報メールの管理	・緊急情報メールの送信依頼には、即時対応する。	A		
		・定期的に緊急情報メールの登録者をチェックし、登録を促す。	A		
	8 ホームページの管理	・更新依頼には速やかに対応し、最新の情報を表示する。	A		
		・更新されていない情報等の更新を促し、必要のない情報は削除する。	A		
		・情報倫理に配慮して、適正に管理する。	A		
	9 図書館の充実	・教科等横断的な学習活動や個別最適な学習が行いやすいように、図書館内の環境を整える。	A		
		・探究を軸とした学びのスタイルのために、図書館としてできることを考え、可能なことから迅速に実行する。	B		
		・リクエストを募り、利用者のニーズに合った本や読ませたい本を揃える。	A		
	10 読書の普及と推奨	・新聞や雑誌、図書の管理や整頓、保管を行い、利用上の便宜を図る。	A		
		・個に応じた教育と学力の定着のために、機会を捉えて読書を推奨する。	A		
生徒支援部	1 基本的生活習慣の確立	・基本的生活習慣の育成を図り、服装指導強化週間を毎月実施する。	A	A	・服装強化週間については、担任を中心とした職員全体で、さらなる意識づけを促したい。 ・自転車のツーロックや貴重品の管理を徹底させる方法を検討したい。 ・購買見守り隊を結成し、昼休みの巡回指導を実施したことは一定の効果があったので、次年度も継続したい。 ・SNS トラブルやいじめの防止、早期発見・早期対応のため
		・思いやりの意識や社会性を身につけさせることを目的とし、挨拶運動を推進する。	A		
		・社会の一員としての自覚と責任の育成を図るために、授業・集会等に臨む姿勢を丁寧な指導する。	A		
		・正しい制服の着用および容姿を整えさせるなど、学校生活の中で挨拶・礼儀作法・遅刻防止等の基本的生活習慣を身につけさせる。	A		
	2 自己指導能力の育成と問題行動の未然防止	・自転車の施錠や貴重品の管理を呼びかけ、自己管理能力を育成する。	B		
		・社会生活における服装容儀の大切さについての理解を深めるために、学年集会等で正しい制服の着こなし方についての支援を実施する。	A		
		・登下校状況の把握と交通マナーの向上を目的として登校指導や下校指導を実施する。	A		
		・問題行動の未然防止を図るために、休み時間等の校内巡回指導を通して生徒の活動の様子を把握する。	A		
	3 健康教育・生命尊重教育の重視	・喫煙や薬物の害に関する講話を実施し、喫煙や薬物使用を防止する。	A		
		・保健厚生部と連携をはかり、生徒の心のケアと教育相談を充実させる。	A		
	4 交通安全・情報モラル教育の推進	・SNS 講習会を実施し、SNS 関連のトラブルを未然に防ぐ。	A		

別紙様式 2 (高)

		・交通安全講話や登下校指導を実施し、交通安全についての意識を高めるとともに、事故防止を図る。	A		に、職員間の連携を強化し、生徒・保護者から相談しやすい雰囲気づくりに努めていきたい。
	5 いじめの未然防止・早期発見・早期解消	・生徒の自己指導力・自己有用感・規範意識を高めることで、いじめの未然防止を図る。	A		
		・保護者・生徒が学校に相談できる関係の構築と、複数の相談窓口を周知し、いじめの早期発見を図る。	A		
		・適切にいじめの事実を確認し、被害生徒・加害生徒双方の心のケアに配慮し、いじめの早期解消を図る。	A		
		・保護者・地域・警察等の関係機関との連携を強化し、学校外でのいじめ関連事案にも適切に対処する。	A		
特別活動部	1 シティズンシップ教育の推進と生徒自身による主体的・自律的活動スタイルの確立	・生徒会が主催する学校行事について、生徒会が中心となって計画・立案・運営していく自治的、協働的な活動を支援する。	A	A	・体育祭や文化祭を全校開催することができた。今年度の反省を次年度に生かす。 ・紫水高校を発展させるために、部活動のPRを行い部員の拡充を図りたい。 ・生徒会の情報交換会への参加を継続し、よりよい生徒会活動を模索していく。
		・体育祭、文化祭においては、実行委員会を中心に企画・運営する。	A		
		・各学校の生徒会と連絡し合い、行える行事を増やす。	B		
		・全校集会や壮行会等で、学校全体が参加できるようにする。	A		
		・委員会活動を活発にするため、定期的に委員会を召集し、話し合いを行う。	A		
	2 部活動のさらなる活性化	・1年生を対象とした部活動紹介及び各部毎の部集会を実施し、主体的な参加を支援する。	A		
		・県外大会出場の際には、生徒会・応援委員を中心に壮行会を実施する。	A		
		・中学生説明会等で、本校の活動のPRを積極的に行う。	A		
		・各部活動の結果を掲示板等で報告し、励まし合うことで有用感を高める。	A		
	3 キャリア・パスポートの積極的な活用	・各ホームルームにおいて振り返りを行い、現在の生徒の力を確認した上で、今後に向け必要な事を考える時間を設ける。	A		
		・生徒自身が今後の進路を意識し、社会で活躍する将来の姿をイメージ出来るような資料を提示するなど、活用しやすい工夫をする。	A		
	4 地域住民に愛される「地域とともにある開かれた学校」づくり	・生徒会を中心に、学校付近の清掃活動等のボランティアを積極的に行う。	B		
		・各部活動においても継続して、学校付近の清掃活動を行う。	B		
		・保護者、学校評議員、地域住民等に、積極的に生徒会活動を公開する。	A		
進路指導部	1 生徒一人一人の進路実現	・高校生活で蓄積した知識や経験を生かし、個々にとって最適且つ社会貢献を見据えた進路を実現する。	A	A	・サポートティーチャーが、小論文や面接指導、英検二次対策等で貢献してくれた。来年度もHPや卒業生への募集
		・進路行事や校内外活動を通して、早期から進路意識を育成する。	A		
		・ICT等を活用して進路行事を周知し、可能性や適性を自認できるよう、行事の振り返りや面談等の機会をつくる。	B		
		・教科と連携して資格検定等の受験を促し、進路実現と学力向上を支援する。	A		

別紙様式 2 (高)

	2 個々の特性を育てるキャリア教育の充実	・オープンキャンパス・高大連携講座・本校主催「1日1大学説明会」等での最新の情報収集を促し、学問への興味関心を喚起する。	A		を継続させたい。 ・2学年と連携し、インターンシップがコロナ前の要領で復活できた。酷暑等を鑑み、夏休み以外に実施することも検討したい。
		・本校主催「公務員講座」やガイダンス等を通して、望ましい勤労観や職業観、社会貢献の精神を育成する。	A		
		・サポートティーチャーと連携し、外部との交流で知識の幅を拡大する。	A		
		・「卒業生合格体験発表会」を実施し、多様な進路についてイメージさせる。	B		
		・体験的活動やボランティア、インターンシップ等の機会を紹介し、勤労の尊さや創造することの喜びを体得させ、多様な人々との協働を推進する。	A		
	3 選抜試験への万全な支援体制	・進路だよりや「進路の手引き」等を発行し、進路選択のための情報を発信する。	A		
		・多様な進路に応じた模擬試験受験の環境を整え、大学・看護医療系・公務員志望者を支援する。	A		
		・3学年と連携し、志願先に応じた受験対策を学校全体で協力する体制を形成し、試験本番に最善の状態で臨めるよう支援する。	A		
保健 厚生部	1 自己健康管理意識の育成	・手洗い、手指消毒の呼びかけを行う。	B	A	・手洗い、手指消毒の徹底を呼びかける。 ・教室内の環境を良くするため、定期的な換気を行う。 ・引き続き、ゴミの分別の徹底を行う。
		・教室内の照明や換気等の教室環境を、保健厚生委員会の仕事と位置づけ、活動を活性化する。	B		
	2 環境美化意識の育成	・ゴミ分別の徹底、ゴミ置き場への提出を通じて、環境美化意識を高める。	B		
		・大掃除・ワックスがけ等を通して、環境美化意識を高める。	A		
	3 防災意識の育成	・年2回の避難訓練を通して、防災意識を高める。	A		
		・日頃から出火の防止に努め、消火器具等防火用品を準備しておく。また、家具類の転倒防止や窓ガラス等の落下防止を図る。	B		
	4 教育相談の円滑な運営	・生徒一人ひとりが、安心・安全な学校生活を送れるよう、職員・保護者・学校カウンセラーとの情報を共有し、連携を密にする。 ・学校外の関係機関との連携のための調整及び連絡を密にする。	A A		
渉 外部	1 P T A行事・事業計画の充実	・P T A総会や評議員会等の行事を企画・運営する。	A	A	・役員や一般会員、職員の意見を積極的に取り入れ、参加しやすいP T A活動を計画する。
	2 広報委員会の運営と充実した活動	・保護者に学校の様子がより良く伝わるように、学校行事の写真撮影活動を充実させる。	A		
		・P T A会報の紙面構成及び内容を検討し、P T A会報を年2回発行する。	A		
	3 研修委員会の運営と充実した活動	・充実したP T A研修視察を企画し、P T A会員の交流や研鑽に寄与する。	A		
	4 各種大会への積極的参加	・関東高P連大会・全国高P連大会に参加し、関東・全国のP T Aとの連携を図る。	A		
		・指導者研修会への積極的な参加を通じて、本校P T A活動の改善に活かす。	A		

別紙様式 2 (高)

	5 同窓会活動への協力	・同窓会入会式を開催するなど、本校同窓会の活性化を支援する。	B		・今後も同窓会活動への協力を継続する。
第一学年	1 基本的生活習慣の確立	・食事や睡眠等の規則正しい生活を送り、継続することで生活習慣を確立する。	A	A	・学校という集団での規範意識、学年やクラスの一員であるという意識が醸成されてきた。 ・日々のHRや学年集会、学校行事を通して生徒一人一人が成長できるように促すことができた。 ・生徒の様子をよく観察し対応することができたが、状況によっては外部機関と積極的に連携する必要がある。
		・遅刻者数の減少を目指し、基本的生活習慣の確立及び信頼関係の構築に繋げる。	B		
		・挨拶や言葉遣い、礼儀等の適切なマナーを身につける。	A		
	2 基礎学力の向上	・HR等での小テストの実施を通じて予習復習の意識を高め、基礎の定着を図る。	A		
		・定期考査の結果をフィードバックし、苦手な部分を重点的に学習する。	B		
		・進路への意識を持ちながら、課外や模試、検定等に積極的に挑戦する。	A		
	3 人間力の育成	・他者との関わりにおいて、相手の立場になって物事を考えられるように働きかけていく。	A		
		・学校という集団の中で、自分本位にならず、規律を守り他者を尊重することが大切であることをHRや学年集会等で繰り返し発信していく。	A		
		・高校生として、すべての行動や発言に責任を持つ。	A		
	4 進路意識の醸成	・生徒一人ひとりの特徴や長所を客観的に捉え、それを進路目標に繋げられるようにする。	A		
		・キャリアパスポートなどを活用し、自己の振り返りと成長を促す。	B		
		・1年生からの取り組みが進路実現につながると意識づける。	A		
第二学年	1 基本的生活習慣の確立	・食事や睡眠等の規則正しい生活を送り、継続することでルーティンを確立する。	A	A	・人間関係の構築に苦慮している生徒が多く見られたが、教員・保護者・SC等の外部機関と連携しながら支援していくことができた。 ・生徒指導案件やその他のトラブルが頻発するなど、規範意識・自己管理能力の低さが表面化してしまった。様々な
		・遅刻者数の減少を目指しながら、基本的生活習慣の確立及び信頼関係の構築に繋げる。	B		
	2 基礎学力の向上	・進路への意識を持ちながら、課外や模試、検定等に積極的に挑戦する。	A		
		・小テストの実施を通じて予習復習の意識を高め、基礎の定着を図る。	A		
		・定期考査の結果をフィードバックし、苦手な部分を重点的に学習する。	B		
	3 人間力の育成	・母校となる自分の学校に誇りを持てるよう、全ての行動に責任を持つ。	A		
		・相手の立場になって物事を考えられるような声かけをしていく。	A		
		・集団の一員として規律を守ることなどを、HRや学年集会などを通して意識づける。	A		
	4 進路意識の向上	・進路に関するガイダンスや活動を充実させ、進路実現に向けて可能性を広げていく。	A		

別紙様式 2 (高)

第三学年		・将来の進路実現を見据え、受信力・発信力を身につける。	A		機会を利用しながら心身ともに成長を促していきたい。
		・基礎力診断テストや模擬試験の事前、事後の指導を行い、進路実現に向けた学力を身につけようとする態度を育む。	B		
		・検定試験や体験講座への積極的な参加を促し、職業観や進路意識の高揚を図る。	A		
	1 基本的生活習慣の確立	・食事や睡眠等の規則正しい生活を送り継続することでルーティーンを確立する。	B	A	・進路実現に向けた見通しを立てさせ、計画的に臨ませることで成果を上げることができた。 ・挨拶や礼儀などのマナー、人間力向上を大切に、学年全体で取り組んだことで、生徒の自立や成長につなげることができた。 ・欠席や遅刻に対する意識を向上させ基本的生活習慣の確立に努力する必要がある。
		・遅刻者数の減少を目指しながら、基本的生活習慣の確立及び信頼関係の構築に繋げる。	B		
		・挨拶や礼儀等の社会人としての適切なマナーを身につける。	A		
	2 基礎学力の向上	・小テストの実施を通じて予習復習の意識を高め、基礎の定着をはかる。	A		
		・定期考査の結果をフィードバックし、苦手な部分を重点的に学習する。	B		
		・進路への意識を持ちながら、課外や模試、検定等に積極的に挑戦する。	A		
	3 人間力の育成	・相手の立場になって物事を考えられるような声かけをしていく。	A		
		・他者と人間関係の課題を見いだし、合意形成を図ることや意思決定ができるよう、ホームルーム、学年集会や探究の時間等で働きかけていく。	A		
		・母校となる自分の学校に誇りを持てるよう、全ての行動に責任を持つよう促す。	A		
	4 進路実現を見据えた意識	・生徒一人一人の特徴や長所を客観的に捉え、それを進路目標につなげられるようにする。	A		
		・基礎力診断テストや模擬試験の事前、事後の指導を行い、進路実現に向けた学力を身につけようとする態度を育む。	A		
		・入学試験や入社試験に向けて自ら考え先を見据えた計画を立てながら行動できるようにする。	A		

別紙様式 2（高）

事務室	1 安全安心な学校づくり	・長期的な施設整備計画を立て、県への予算要求を行う。	A	A	・引き続き相互のチェック体制を維持し、財務会計の適正な執行に努める。
		・校舎内外の施設設備の目視による点検を行う。	A		
		・不良箇所は速やかに修理修繕を行う。	A		
	2 財務会計の適正な執行	・校内予算を作成し、計画的に物品を購入する。	A		
		・各種法令を遵守し、誤りのない会計業務を執行する。	A		
		・互いの業務をチェックし合い、ミスや不正を未然に防ぐ。	A		

※評価規準： A：目標・方策等を十分に達成できた。
B：目標・方策等をほぼ達成することができた。
C：目標・方策等を達成することができなかった。